

国東半島の鬼会面を一堂に展示



12/16(土)～1/8(月・祝)
六郷満山開山1300年記念
「鬼会面—鬼と仏が福を招く—」

718年、仁聞菩薩が開基したと伝えられる国東半島に点在する六郷満山が、2018年に開山1300年の節目を迎えました。その記念事業として、六郷満山の各寺院で保管されている貴重な鬼会面や鬼会仏具、写真パネルなどを展示するほか、奈良国立博物館館長と興導寺の住職による講演会を開催。神仏習合の六郷満山文化を広く紹介しました。



3/21(水・祝)
OASIS ひろば21 スプリングステージ

「第33回国民文化祭・おおいた2018」「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」200日前のプレイベント。東京藝術大学を卒業し活躍する、県出身の渡邊智道さんと朝来桂一さんのジョイントコンサートや箏曲の調べ、フルートとギターのデュオによる軽やかな音色、躍動感あふれるミュージカルで会場全体が大きな歓声で包まれました。

音楽とパフォーマンスの花が咲き誇る

〈歌心と絵ごろの交わり 二豊路 漂泊の画人 佐藤 溪 と 俳人 種田山頭火〉関連イベント



2/18(日)
座談会「旅と芸術、佐藤溪と山頭火を語る」

元佐藤溪美術館館長の高橋鶴子氏と山頭火ふるさと会会長の窪田耕二氏、そして新見館長による座談会。超満員の会場では、2人の作品との出会いや魅力、人物像などが語られました。高橋氏の「1人の画家が描いたものとは思えないほど表現が多種多様」という言葉や、窪田氏の「山頭火の句は人を魅了する。コピーライターのよう」という言葉が印象的でした。

作品に対する愛情が伝わる座談会



2/9(金)
内覧会

湯布院で生涯を終えた詩人画家・佐藤溪と、かつて二豊路を旅した漂泊の俳人・種田山頭火の作品や資料、226点を集めた企画展。初日にびびメンバーとメディア向けの内覧会を行いました。余情豊かな山頭火の句と、時代によって作風が異なる佐藤溪の絵画や詩、家族に宛てた書簡など、旅とアートの関わりを絵と言葉から辿る展示に、来場者は見入っていました。

漂泊の旅の中で生まれた作品の数々



3/3(土)
ワークショップ「山頭火の世界を味わう」

竹田市公民館竹田分館で行われたワークショップには、講師に杵築市出身の俳句作家・藤原嘉久氏をお招きしました。山頭火の生涯や俳句の紹介の後、実際に参加者が俳句作りにチャレンジ。短時間で優れた俳句を詠んでいました。作品例「落ちる滝にまっすぐツララ」「春の水かがんで汲めり裾濡らし」「イノシシかな、あッ猫だったアスファルト」ほか多数。

山頭火の俳句を知り、俳句を詠む



1/20(土)・21(日)
かがみのかなたはたなかのなかに

「鏡の中にはどんな世界が広がっているの?」近藤良平、首藤康之、長塚圭史、松たか子ら演劇界・ダンス界で活躍する魅力的なキャスト達が集結した本公演。開演前のロビーに軍服姿の4人が現れたり、こちらの世界とあちらの世界は、シンクロしているようでずれていたり…。その日常から離れた不思議な「鏡」の世界に、たっぷりと魅了されました。

鏡の向こうにいるのは誰? ちよっぴりダークな一幕も!

iichiko 総合文化センター & 大分県立美術館 OPAM のレポート